

## 鳥取県立美術館 ロゴ・シンボルマーク一般投票のご案内

— 9/1～30 だれでも参加できる LINE 投票 —

概要	<ul style="list-style-type: none"><li>・2025年春の開館を目指し建設中の鳥取県立美術館について、<b>ロゴ・シンボルマークの一般投票を9月1日～30日の間</b> 実施いたします。</li><li>・投票には、LINEアプリのリサーチ機能を使用し、<b>LINEアカウントをお持ちの方なら誰でも</b>、国内外どこからでも投票可能です。</li><li>・候補作品は応募された<b>1,726点の中から一次審査を通過した6点</b>で、ウェブサイトにはそれぞれのデザインコンセプトも掲載しています。</li><li>・本公募事業は、鳥取県立美術館のコンセプトである「とっとり未来を“つくる”美術館」「みんなで“つくる”県立美術館」を実現すべく、<b>公募企画</b>として実施しているものです。県立美術館事業への<b>県民意見の反映のしくみ</b>として、全県的な開館への期待感創出を図ります。</li></ul>
日時	2022年9月1日(木)～30日(金)
URL	鳥取県立美術館公式LINE (ID:@tottori_moa) <a href="https://lin.ee/MdIX6Of">https://lin.ee/MdIX6Of</a> ウェブサイト記事 (デザイン・コンセプト一覧) <a href="https://tottori-moa.jp/news/2534/">https://tottori-moa.jp/news/2534/</a>
投票方法	<ol style="list-style-type: none"><li>1. 鳥取県立美術館 LINE 公式アカウント (@tottori-moa) を「友だち追加」</li><li>2. トーク画面から「一般投票」へ</li><li>3. 1つを選んで投票</li></ol> <p>※投票は1アカウント1回のみです。</p>
審査日程	<b>9月1日(木)～30日(金) 一般投票 (LINEによるオンライン投票)</b> ※一般投票の結果は、最終審査において、審査員1名分として扱います。 10月(予定) 最終審査 ※非公開 2023年3月 開館2年前カウントダウンイベントで最優秀賞発表(授賞式)予定
備考	最終審査では、一般投票の結果および作者からのヒアリングを踏まえ、評議において最優秀賞、優秀賞、特別賞を決定します。
主催	鳥取県立美術館パートナーズ株式会社・鳥取県教育委員会
その他	鳥取県立美術館ウェブサイト <a href="https://tottori-moa.jp/">https://tottori-moa.jp/</a>
別添資料	<input checked="" type="checkbox"/> (LINE 一般投票チラシ、候補作品デザイン・コンセプト一覧)

【本件に対するお問合せ先】

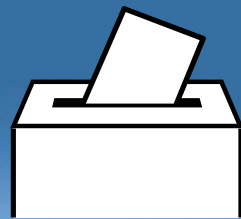
鳥取県立美術館パートナーズ 広報担当 石山

(Mail) [info@tottori-moa.jp](mailto:info@tottori-moa.jp) (TEL) 090-6536-8804

※迅速な対応ができるよう、できるだけメールでのご連絡をお願いします。



# 鳥取県立美術館 ロゴ・シンボルマーク 一般投票



鳥取県立美術館（2025年春開館予定）の象徴となるロゴ・シンボルマークづくりを、誰もが参加できる公募型ですすめています。応募された約1700点のなかから、一次審査を通過した作品について、オンライン一般投票を実施します。ぜひご参加ください！



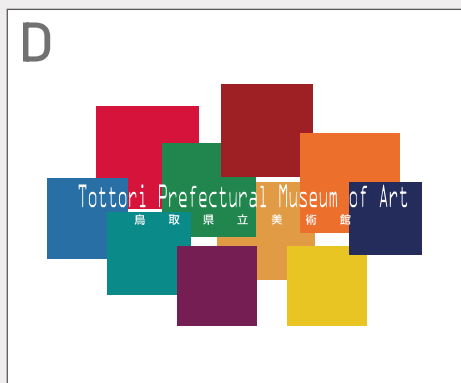
- ① 公式LINEアカウントを「友だち追加」
- ② トーク画面から「一般投票」へ
- ③ 1つを選んで投票！



@tottori\_moa

- ・投票は1つのアカウントにつき1回のみとなります
- ・一般投票の結果は、最終審査において、審査員1名分として扱います
- ・最優秀賞等の発表は2023年3月を予定しています

## ▼ 候補作品 ▼



(全6点・順不同/手描きの作品など必要に応じて作者の了解を得てデザイン調整を施しています。採用後に実用化を踏まえて再度調整を行う場合があります。)

▼ウェブサイトにはデザインコンセプト一覧も掲載しています



投票期間

2022年9月1日～30日

# 応募総数 1726 点！みなさまご応募ありがとうございました！

鳥取県立美術館ロゴ・シンボルマークの公募事業は、2022年4月に告知をはじめ、応募期間（7月7日～7月21日）の間に、全部で1726点のご応募がありました。

最年少は3歳から、最年長は80代の方まで！

プロのデザイナー、学生の方、親子での合作など、バリエーション豊かな作品の数々が集まりました。

また、小学校、中学校、高校、大学などから30校ほどの団体応募も。ご応募いただいた皆様、ありがとうございました！

8月5日にすべての作品を一堂に並べて一次審査を実施し、審査委員評議の結果、候補作品を選定しました。

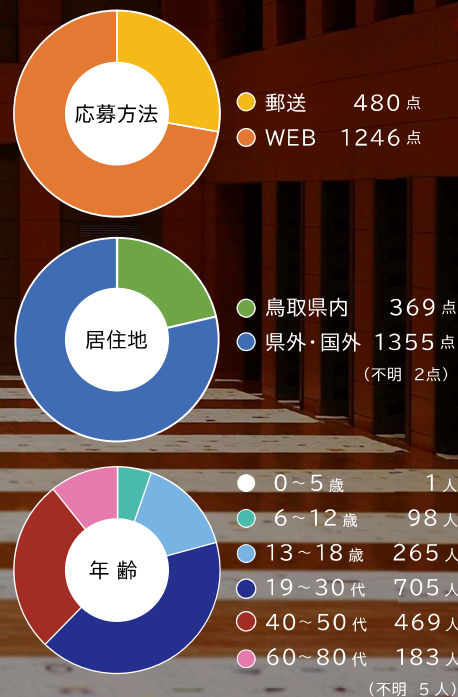
9月のLINE一般投票ではこの中から1点を選んでいただきます。

ぜひデザインをじっくり吟味して、投票をお願いします！

この結果は10月の最終審査において審査員1名分として扱います。

最終審査の結果発表（最優秀賞、優秀賞、特別賞）は2023年3月の予定。

どうぞお楽しみに！



一次審査の様子（2022年8月5日 鳥取県立倉吉未来中心にて）

## OPENNESS！

### 2025年春、『未来を”つくる”美術館』が鳥取県に誕生します。

鳥取県立美術館は、50年にわたる鳥取県立博物館美術部門のコレクションと活動を引き継ぎながら、収蔵スペースや常設展示室を拡充し、ワークショップルームの新設や「アートを通じた学び」を支援するアート・ラーニング・ラボ（A.L.L）等の教育普及部門の充実によって、だれもが芸術文化にいつでも触れることができる環境を整備します。

また、鳥取県ゆかりの優れた美術に加え、広く国内外の優れた美術・文化や、同時代の美術の動向を示す作品の収集を継続的に行うことで、時代とともに成長を続ける魅力的なコレクション形成を図ります。

おみどりはいじあと

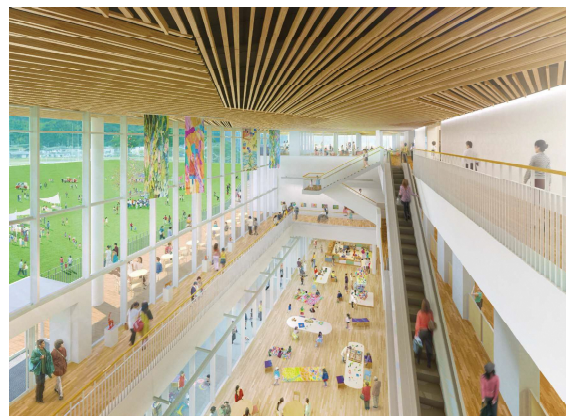
史跡大御堂廃寺跡に向けて広がる活動空間は、まちとのつながりを生み、フリースペースを多く設けた開放的な大屋根のある建築の下では、多様な人々、アート、文化との出会いと創造性を日常的に促し、おおらかに来館者を迎えます。

施設整備・開館準備期においても、美術館づくりの進捗をオープンにし、だれにでも開かれた“ともにつくる”しくみで推進し、地域や文化施設と連携しながら、県内全域にひろがる多彩な事業を展開していきます。



◀ 詳しくはウェブサイトへ

検索 鳥取県立美術館



提供：横総合計画事務所 イメージ制作：ヴィック Vicc Ltd

2022.8月発行

# 鳥取県立美術館 ロゴ・シンボルマーク 候補作品一覧

記号

作品

デザインコンセプト（作者による）

A



Tottori Prefectural Museum of Art  
鳥取県立美術館

みんながわくわくして楽しくなるように、  
たくさんの線やカラフルな色をつかって、  
きらきら輝いているように工夫しました。

B



『未完成なマーク』

鳥取（TOTTORI）の複数あるTを県民一人ひとりに見立て、そのTの集積によって美術館のシルエットを構成、県民が主体となる美術館を目指したデザインとなっている。  
TとTの隙間は、建設後の活用こそが重要である事を、隙間を埋めていく＝皆で大切に作り上げていこう、というメッセージになっており、参加しやすい「開かれた場」である事も表している。  
『未完成なマーク』から『思いのこもった美術館』完成を目指して。

C



シンボルマークは、美術館完成予想図の特徴的な屋根の大きなひさしと正面に開けたガラス面をオマージュし、美術館の外観をシンボライズした。青い屋根とひさしは、未来へはばたく鳥の羽をイメージし、中央の白抜きは、鳥取のイニシャルTと未来への入り口を表現した。ロゴデザインは、特に視認性に優れ、シンボルマークとの調和を考えた。英語表記は、小文字で柔らかく親しみやすさを考慮した。

D



色とりどりの正方形のパズルを散りばめて子供たちが遊んでいる様子を表現して子供たちが楽しめる空間になるよう思いを込めた。また、字を白色にすることで、パズルを強調した。

E



シンボルマークは、

青空と大御堂廃寺跡、美術館で構成されています。  
美術館のシルエットは、鳥取の頭文字「T」を表します。  
青空の下、大御堂廃寺跡は人々の集う場を、  
美術館の白色は、未来や活動が描かれる場を表します。  
また、一定のルールに基づき、シンボルマークは縦横へ伸縮可能な設定とします。  
一人ひとりが想像し、可能性を生み出す。  
それこそが、未来をつくる美術館に相応しいと考えます。

F



鳥取の「鳥」を全体のモチーフに制作しました。「鳥」の上部が横に長いのは、貴館の建物を模しています。その下にある2つの波は、砂丘、風紋を主に表していますが、鳥取県と面している日本海の波、緑豊かな山も含めております。そうした自然の土壤で鳥取はできており、縁の下にあることを落とし込みました。波打つことで人々の熱量も盛り上がりげらばと思います。

（全6点・順不同／手描きの作品など必要に応じて作者の了解を得てデザイン調整を施しています。採用後に実用化を踏まえて再度調整を行う場合があります。）